

【特集】西方見聞録

—青少年交換交流事業高校生レポート

日本から約9,300km離れたオーストリア共和国。中央ヨーロッパの内陸に位置する同国チロル州ロイテ市とブライテンヴァング市とは、平成3年に旧江刺市が姉妹都市提携を結びました。7年から青少年交換交流事業を始め、現在は隔年で交流を行っています。ことし8月20日から28日にかけて両市を訪れた本市の高校生たちが、現地の様子をテーマごとに皆さんにお伝えします。

■問い合わせ＝本庁地域づくり推進課市民活動係(江刺総合支所・内線321)



●ハーネンカム山での一枚。背後に広がるのがロイテ・ブライテンヴァング市の街並み

月日	主な日程
8月20日 土	出発 ウィーンとインスブルックを経由し現地へ
21日 日	ロイテ・ブライテンヴァング市でホストファミリーと過ごす
22日 月	ノイシュヴァンシュタイン城、フュッセン市(ドイツ)見学
23日 火	ロイテ・ブライテンヴァング両市長表見訪問、 エーレンベルグ城址・博物館見学、コンサート鑑賞など
24日 水	プランゼー社訪問、ハーネンカム山登頂、夕食会など
25日 木	インスブルック市内観光
26日 金	ホームステイ終了 現地を離れウィーン市へ
27日 土	ウィーン市内を観光後、空路で成田空港へ(機内泊)
28日 日	帰国



広い農地をカバーするため農機導入や栽培方法など工夫を重ねる

実りの秋を迎え黄金色に輝く胆沢区の水田。藤田栄貴さんは「誰かがこの景観を守っていかなければ」と語る。稲作と牛の繁殖・肥育を営む農家の長男として生まれ、岩手大学農学部に進学。卒業後は地ビール製造会社就職し、飲食業などを経て実家に戻ったのは28歳のときだった。当初は兼業農家という道も考えたが「男2人いれば大抵のことは何とかなるのでは」と大学のサークル仲間を誘い、2人で専業農家に。父の指導の下、一から稲作を学んだ。

就農から15年、徐々に周囲の農家からの耕作依頼が増え、20畝に満たなかった田は50畝までに広がった。人手に余裕はないが「できる限り引き受けた」と前向きだ。「田を耕す人が胆沢の景観を守っている」と語る栄貴さん。「農業経営の安定化と魅力的な稲作の実践」が目下の目標だという。「荒れた土地に住みたい人はいない。人に来てもらうためにも、農地を荒らさず活用していきたい」。熱い思いを胸に秘め、栄貴さんは土と地域を耕していく。

〈今月の表紙〉



まえさわの自然探訪ツアー「伝説の経塚山と月山神社へ」(市環境市民会議「奥州めぐみネット」など主催)が9月10日、前沢区内で実施されました。同会議の会員や市民など20人が参加し、前沢区の湧水や経塚山、月山神社などを巡り、初秋の前沢を満喫しました。

写真は、月山神社奥の院の周囲にそびえる「月山松」。樹齢約400年のナンブアカマツの巨木で、地域の宝として大切に守られています。【市ホームページ「ふるさと写真館」の関連記事を閲覧することができます▶】

農地を守ることは 地域を守ること

藤田 栄貴さん (42歳)
胆沢区若柳字下沢田



ふじた・えいき◎昭和48年、胆沢区若柳生まれ。スタッフと2人で50haを耕作する水稻農家であり、地元の新里念仏剣舞や消防団の活動にも積極的に取り組む。妻と息子2人、父母、祖母との7人家族



広報おうしゅう
Public Relations Magazine
Oshu City
Vol.128
2016

10

CONTENTS

- キラリ輝く奥州人
- 【特集】西方見聞録
—青少年交換交流事業
高校生レポート
- 教育・保育施設の再編に向けて
- 平成27年度決算
- 2017 スポニチいわて奥州
きらめきマラソン
- 地域6次産業化—育てよう
元気の芽
- おもっちニュースレター
- 百歳おめでとう
市水道事業中期経営計画(後
期計画)達成状況
- まちの話題
- 市政ズームイン
- 夢トーク
青春讃歌
- 雨の日も晴れの日も
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 我が家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- トマス・アンナの あんなこと
こんなこと
姉妹都市 掛川だより
- 情報あらかると
- 奥州遺産

地域の個性が
ひかり輝く
自治と協働のまち
奥州市